

A・M 英語英文科 3 年次生

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校 1 年生の夏にシドニーでの短期留学をきっかけに長期留学を目指すようになった。大学の情報収集をした際に、協定留学プログラムを知り、大学入学した後の 4 月・5 月あたりに国際課の留学について相談しに行ったのをきっかけに本格的に目指すようになった。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

留学を目指してからは、IELTS の情報収集と勉強を始めた。それと同時に国際交流のイベントや国際交流スタッフの活動へ積極的に参加し、アクティブに楽しく異文化理解や語学力を上げるようにした。1・2 回生で出来る限り単位を修得するために、たくさんの科目を履修し時間がない中でもお昼時間を利用し、出来るだけ speaking and writing support と chat room に参加した。初めは留学など到底出来るような英語力ではなかったが、留学までの 3 年間 speaking and writing support と chat room を通して speaking skill を格段に伸ばすことができたのではないかなと思う。大学のレアジョブプログラムをきっかけに、長期休みはレアジョブとオンラインでの speaking and writing support と chat room に参加し語学力を維持するように努めた。IELTS については、IELTS キャンプに参加し勉強の仕方を学び、そこでもらったテキスト、公式問題集や単語帳を使って勉強していた。

③ 留学決定から出発までの準備期間にしたこと

◆ 語学学習法

同女の必修やオールイングリッシュの授業を通して語学力を高めるようにしていた。国際交流などのイベントには積極的に参加し、学校外で留学生との交流をしていた。あとは、IELTS を勉強する要領で単語帳やオリジナル単語帳で語彙力を高めたり、英語の読み物を読んだりするようにしていた。リスニングに関しては、YouTube でシャドウイングをすることや、オーストラリアのラジオを聞き流すようにしていた。スピーキングは speaking and writing support や chat room を活用したり、留学生と会話をしたりするようにしていた。

◆ ビザ申請方法

エクセルエデュケーションというエージェントがサポートしてくれていたもので、提示された書類に記入し、あとはお任せしていた。

④ 現地到着後

◆ 空港から滞在先までの移動手段、所要時間

滞在先までの移動手段は、AHN（Australian Homestay Network）のお迎えサービスを利用した。大体 10 分くらい。

◆ **現地でのオリエンテーション期間中にしたこと**

事前に学校への行き方を把握したり、家の近所を散策したりしていた。

◆ **その他必要な諸手続き方法**

主に Wise のクレジットカードを使い生活していたので、銀行口座は開設していない。しかし友人と割り勘するときには、オンラインでの送金ができるので現地の銀行口座を持っていた方が便利だと思った。

⑤ **語学研修期間**

◆ **語学研修先の施設・環境について**

施設は比較的きれいだった。学生の多くはアジア圏からの留学生で、特に中国からの留学生が多かった。クラスは中国人 14 人、台湾人 4 人、香港人 1 人、韓国人 1 人、そして日本人が私 1 人の合計 21 人だった。UNSW college はイベントも豊富で、放課後や休み時間に友人とよく参加した。新しい友人もそこで多くできた。

◆ **授業内容、課題、試験**

Reading skills, listening skills, writing skills, discussion skills, presentation skills などのクラスがあり、どれも大学に行ったときにスムーズに授業を受けられるように構成されていた。課題は week が進むにつれて増えていった。ほぼ毎日あったが個人的には追われるほどではなく、しっかり日常を楽しみつつ学習できたと感じる。試験は、全授業あった。しかし先生がどの授業も試験に向けて入念に対策してくれたので、不安はあったが試験に受かり大学に進むことができた。

⑥ **正規科目履修期間**

◆ **大学の施設・環境について**

キャンパスは同女に比べたらかなり広い。勉強のスペース、レストラン等も充実している。活気があって、とても賑やかな大学だと感じた。

◆ **履修科目について**

・ **ART1690 The Structure of Language Overview**

言語学の基礎科目について学んだ。主には音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論を広く学んだ。レクチャーとチュートリアルに授業が分かれていた。課題は毎週あり、毎週学生がチュートリアルで自分の解答の解説をプレゼンテーション形式で行い、クラスでディスカッションし、そして先生の解説を聞くという流れだった。毎週の課題＋テキストの該当範囲を事前に読む必要があった。試験は 2 回あり、授業や課題で扱われていた問題と同じ形式

のものが出題されていた。

・ **ARTS2694 The Grammar of English**

言語学の統語論の科目で、大学院生も一緒に履修する科目となっている。この授業もレクチャーとチュートリアルに授業が分かれおり、毎週の課題提出と教科書の該当範囲を読むことが求められる。毎週学生が自分の解答についてプレゼンテーションを行い、その内容についてディスカッションを行っていた。

・ **ARTS2696 Phonology: Theory and Description**

言語学の音韻論について学んだ。言語学の知識を使って、該当言語の音の体系や構造について分析を行う。この授業もレクチャーとチュートリアルに授業が分かれおり、毎週の課題提出と教科書の該当範囲を読むことが求められる。毎週、学生が自分の解答についてプレゼンテーションを行い、その内容についてディスカッションを行っていた。この授業は私にとって難易度が高く、単位取得には至らなかった。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

課外活動として UNSW の日本語のクラスのアシスタントをしていた。イベントでたまたま日本語のクラスを担当している先生に出会い、副専攻で日本語教育を取っていることを伝え、参加することができた。海外では実際にどのような教育が行われているのかを知るいい機会となった。また、Language exchange や Culture cafe に参加し、人と関わるようにしていた。学校外でも日本語サポートボランティアに参加した。

⑧ **現地での住まいについて**

◆ **語学研修期間、正規科目履修期間**

ホームステイを利用していた。2 人のハウスメイトがおり、それぞれ普段は部屋で生活し、シャワー、トイレ、洗面所は共同だった。留学生の共有スペースがあり、そこで一緒に課題をしたり、お話ししたりすることでハウスメイト同士仲が良くなった。朝と夜はホストファミリーが用意してくださり、お昼は外食か電子レンジで温めて食べられるものだった（キッチンが使用できなかったため）。大学へはバスを 1 つ乗り継ぎ、所要時間は約 40～50 分だった。

⑨ **長期休暇の過ごし方**

友人と一緒に過ごす時間が多かった。車でしか行けないところなど、いつもより少し遠出した。

⑩ **留学期間中の就職活動の取り組み**

特にしていない。しかし留学を通して改めて自分がやりたいことや自身の特性などを自己分析し、自分の進みたい道がより明確になった。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

どの出来事も楽しすぎて一番を決めることができない。しかし、Sydney easter show は特に思い出に残っている。もともとは農家の業績を競う大会なのだが、移動遊園地、食べ物や洋服などたくさんのお店が集まり、シドニーで一番大きなお祭りともいわれている。映画で見る、“キラキラした海外のお祭り”でとても印象に残っている。大学でできた友人と朝から夜の花火まで存分に楽しんだ。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

自分の自己管理能力の低さで苦労した。課題や試験が迫る中、体調を崩したりしてメンタルが不安定になってしまったことがあった。この経験から、体調管理も含め、自分自身の性格の特性を理解し、マネジメントすることの大切さを改めて実感した。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

日本の「本音と建て前」という文化は通用しないことがあるということ。自分について知ってもらうという点において、きちんとした信頼関係を築くには、自分の本音や意見をしっかり表現することが大切だと実感した。言わない優しさよりも、伝える優しさの重要性をオーストラリアでは感じた。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、インターナショナルな環境で様々な国の人と交流ができたことです。留学生も多いので、学校のサポートも手厚いと感じた。悪かった点は、その国の人同士で固まる傾向があった。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

UNSW は試験もコンピューターベースだったので、パソコンは必須。ルーズリーフやノートは、授業のメモやまとめをするのに便利だった。教科書や配布資料がデジタルなので、iPadがあれば書き込みができるので便利。また、シドニーの春秋口と冬は意外と寒いので、カイロが役に立った。風邪をひくこともあるので、常備薬があれば安心です。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力はリスニングとスピーキングが特に伸びたと感じる。友人が全く居ない状態から、日本へ帰る頃には別れを惜んでもらえる友人がたくさんできたことが一番の成果だと思う。語学力だけでなく、人間的に大きく成長できた。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

自分なんか留学なんてできるのかな？と不安に思っている方もいるかもしれません。実際に私がそうでした。留学の目標と自分の現状のギャップに不安を感じていました。しかし留学を終えて思うのは、「行動あるのみ」ということです。きっと得られるものは大きいので、失敗を恐れずに挑戦してみてください！

IV. 将来の目標

今後の進路、将来の目標・夢

将来のどこかのタイミングで英語教育、日本語教育に関われたらいいと思う。留学中にたくさんの人に支えてもらい、親切にしてもらったので、今度は私が誰かの助けになりたい。また次にシドニーに行ったときに、親切にしてくれた人たちに私の成長を見てもらいたいので、これからも言語を学び続けたい。

V. 写真



クリスマスの期間はハウスメイトはおらず、ホストファミリーと祝いました。



近所に住んでいる人たちが、La perouse ビーチにあるフィッシュ&チップスのお店に連れて行ってくれました。



大晦日と元旦は、kiama（市街地から車で 2 時間くらい）にある友人の実家で過ごしました。この写真は、新年を祝う花火です。



Ester show の写真です。大学でできた友人と行きました。



Manly にあるビーチです。オーストラリアの海はとてもきれいです！！